

## 令和5年定例3月会議一般質問

質問者	質問事項及び要旨	質問の相手
今田光弘	<p><b>小値賀の教育について</b></p> <p>ここ何年も全国的に言われ続けている人口減少問題だが、本町では移住者は比較的多いものの、やはり亡くなる人の方が多く、このままでは遠くない将来に他の自治体と合併せざるを得なくなる可能性もある。</p> <p>そうならないためには移住者、特に若い人たちが今まで以上に本町を選びたい、住み続けたいと思うような施策、とりわけ教育と子育て環境をもっと高い次元に整える必要がある。</p> <p>先の定例会議では西村町長も松屋治郎議員の質問に対し、教育の充実と子育て支援に優先的に力を入れたいとし、「小中高一貫教育の推進」、「ふるさと留学生制度」及び「北松西高校魅力化推進事業」を連動した「小値賀の教育」をさらに充実させると答弁していた。</p> <p>そこで今回はまさにその当事者である教育長の考えを伺う。</p> <p>①小中高一貫教育は、各校種の特徴を有機的に活かした学校行事や校種を超えた相互乗り入れ授業、12年間を通じた教育課程の編成を目標として進めているが、この先どのように推進し発展させていくのか。</p> <p>②北松西高校の存続にもつながる「ふるさと留学生制度」には「入寮型」と「しま親型」があるが、これからこの制度を維持継続発展させるための課題とこの先どのように制度の充実を図っていくのか。</p> <p>③「北松西高校魅力化推進事業」は高校を存在するための重要な事業で、地域と連携した活動、国際化・英語教育</p>	教育長

の推進、キャリア教育の充実と学力保障を柱とした「アイランド・チャレンジ事業」によって魅力化を進め、生徒数の減少を防ごうとしているものの、現実には厳しい。

小さな離島という地理的地勢的メリットをもっと生かした魅力が小値賀にはあるはずで、それがあってはじめて地域が受け入れ、生徒が行きたい、保護者が通わせたいと思う高校になる。そのために何ができるのか、何をしたいか。